

JOCジャーナル Vol. 115 2019 Aug

CONTENTS

目次・TOP頁	.....01
JOC第22回通常総会 開催報告	.....01~02
JOIN第18回通常総会 開催報告	.....03
JOIN理事会開催報告	.....03
組合食肉共同販売事業・買取基準改定	.....04
消費税増税と軽減税率に関するダチョウ関連商取引について	.....04
JOC広島支部発足～食肉処理場稼働	.....05
帯広畜産大学クラウドファンディング	.....05
JRA補助事業 防疫・AW事業を受託	.....06
編集後記	.....06

**【令和元年 JOC JOURNAL メール配信開始】**

5月1日、元号が平成から令和へと変わり、新たな時代が日本におけるダチョウ産業のさらなる飛躍の時代となるよう事務局も邁進してまいりたいと思います。本誌の発行形態も模様替えしメールでの情報発信・ホームページへの同時掲載といった形でお届けしてゆきたいと思います。

本号ではJOC並びにJOINの総会の報告。またJOIN理事会の報告及び理事会で決定された食肉共同販売（食肉買取基準の改定）、JOINでH31年度事業として受託した2件のJRA補助事業について。その他会員の活動状況についてお知らせいたします。

JOC  
第22回通常総会  
開催報告

JOCは、5月23日（木）午後3時より東京都台東区の東京文化会館に於いて第22回通常総会を開催した。例年に倣いJOINとの同日開催となった総会は、冒頭に竹原一明 JOC 会長の挨拶、続いて農林水産省 消費・安全局 動物衛生課 田村愛子様のお来賓挨拶があり、その後、議長に山口章裕氏（JOC 副会長）を選出して審議に入り、

上程された議案は会員各位には議案資料を事前に送付した通りであり、全てが原案通り承認され、可決された。

## 【竹原一明会長 第 22 回通常総会挨拶】



本日は、日本オーストリッチ協議会 第 22 回通常総会に、ご多忙のところご参集くださりまして、誠にありがとうございます。とりわけ、農林水産省消費・安全局動物衛生課 国際食料調査官の田村愛子 様におかれましては、御多忙時にもかかわらず、御臨席いただきまして誠にありがとうございます。

2018 年度には、わが国では高病原性鳥インフルエンザの発生はありませんでしたが、昨年 9 月以降、法定伝染病の豚コレラがイノシシや豚で発生しており、今年度になっても、まだ終息せず、防疫対策、特に徹底した飼養衛生管理基準の遵守が求められています。

一昨年の 2017 年度には、日本中央競馬会畜産振興事業（JRA 事業）に「ダチョウ防疫強化対策事業」が採択され、日本オーストリッチ事業協同組合（JOIN）が事業主体となり、JOC メンバーや外部委員の先生方の協力の下、ダチョウ農場に対して、「飼養衛生管理基準」に沿った防疫強化を指導しました。その飼養実態を基に、「ダチョウ農場防疫マニュアル」を作成し、全国のダチョウ農場や家畜保健衛生所に配布するとともに、JOC と JOIN のホームページに同マニュアルを PDF として、公開しました。

今年度は、同じく JRA 事業で、「ダチョウ防疫強化対策事業」と「ダチョウ飼養アニマルウェルフェア対応推進事業」が採択されております。ダチョウ農場防疫マニュアルを基に、より衛生対策を強化し、さらにアニマルウェルフェアを重視し、生産性を高められることを期待します。JOC 会員の皆様のご協力が必用ですので、よろしく願いいたします。

- 【議案】 第 1 号議案 平成 30 年度事業報告について  
第 2 号議案 平成 30 年度決算報告について  
第 3 号議案 平成 31 年度事業計画（案）について  
第 4 号議案 平成 31 年度予算（案）について  
第 5 号議案 任期満了に伴う役員の改選について

## 【新役員体制】

理事：竹原一明（会長）、山口章裕（副会長）、小久保謙、川口達男、田中俊之

監事：高橋 響

\*総会では紺野 耕を役員・副会長として議決されましたが、就任承諾を頂く段でご高齢の為辞退された旨を会長が承認された由ご報告いたします。



## JOIN 第 18 回通常総会 開催報告

JOIN は、5 月 23 日（木）午後 1 時 15 分より東京都台東区の東京文化会館において第 18 回通常総会を開催した。冒頭に川口理事長の挨拶、続いて農林水産省 生産局畜産部畜産振興課課長伏見啓二様の来賓挨拶があり、その後、議長に小久保謙を選出して審議に入り、上程された議案全てが原案通り可決された。

- 【議案】 第 1 号議案 平成 30 年度決算関係書類の承認について  
第 2 号議案 平成 31 年度事業計画関係の承認について  
第 3 号議案 借入残高の最高限度額の決定について  
第 4 号議案 役員報酬の決定について

### 【川口理事長 総会挨拶】

皆さん、こんにちは。本日は第 18 回通常総会の開催にあたり、全国各地よりお集まりいただき、本当にありがとうございます。また来賓の皆様には御多忙中にもかかわらず、本総会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。とりわけ、御来賓の農林水産省 生産局畜産部畜産振興課課長、伏見啓二様。同課技術第二班安藤寛哲様におかれましては国会開催中の大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

組合においては、JRA 平成 31 年度補助事業として 2 つの事業を採択いただきました。「ダチョウ防疫強化対策事業」と「ダチョウ飼養アニマルウエルフェア対応推進事業」です。防疫については昨年から引き続いての事業ですが、鳥インフルエンザをはじめとした防疫体制については気を緩められない重要な課題です。さらに近年家畜のアニマルウエルフェアについても、すでに他の家畜においてはその推進が進んでいるようですが、ダチョウにおいても大変重要な課題と認識しており、この事業を通して、その推進に力を注いでまいりたいと思います。アニマルウエルフェアはまだまだその意識が十分であるとは言えませんが、ダチョウの生活安楽性はひいては生産性の向上にもつながる事だと思えます。JOC やお世話になる委員の先生方と共に、実のある事業にしてゆきたいと思えます。

本日は第 18 回総会にあたり、昨年度の事業の総括と本年度の事業計画を皆様に御審議いただきます。どうか建設的な御意見をいただき、より良き新年度のスタートとしたいと思います。どうか宜しくお願い致します。

## JOIN 理事会 開催報告

5 月 9 日（木）に JOIN 平成 31 年度第 1 回理事会が開催された。本理事会では第 18 回通常総会の議案内容が検討されたものであるが、加えて JOIN 組合員の皆さんの生産活動に関わる共同事業（食肉共同販売・組合の食肉買取価格基準）について検討されたので次項でご報告したい。

## JOIN食肉共同販売・組合買取基準改定



JOIN では食肉共同販売を伴う食肉生産処理出荷高の低迷を受け、H30年1月に飲食店等マーケット向けに食肉類の販売単価の値上げを実施。これを受けて平成31年度第1回理事会において食肉買取基準の改定を決定した。H27年より4年ぶりの改定となる。

旧来の買取基準では生産肉量（フィレ、モモ、ドラム、内臓）24kg基準で、買取額60,000円だったところ新基準では1羽分70,000円と引き上げを行い、また24kgの基準肉量に対して±1kgあたり2,500円だった調整額を3,000円とした。右表に買取例を示す。

	1羽分数量kg (標準目標例)
フィレ	2.560
ファンフィレ	3.200
モモ	8.860
ドラム	5.600
砂肝	1.200
肝臓	1.700
心臓	0.850
すじつきブロック	5.000
トリミング	6.000
ネック(骨はずし)	0.800
背脂	2.000
1羽分合計	38.770kg
精肉・内臓の合計	23.970
24kg基準に対する数量	-0.030
調整額 3,000円/kg	¥ -90
評価額 (70,000円+調整額)	¥ 69,910
組合手数料5%	¥ 3,496
清算額	¥ 66,415

## 消費税増税と軽減税率に関わるダチョウ関連商取引について

政府により本年10月に実施される予定の消費税10%への増税と軽減税率の導入について、会員の皆様におかれましては増税・軽減税率対応のレジ・会計システムの準備を進めておられると存じます。ダチョウ関連の商取引について軽減税率に対象になるかどうか、税務署や農水省畜産振興課に確認を行ったのでご紹介したいと思います。

特に卵は食用の供給か、種卵等食用目的以外での供給の場合で請求する税額が変わってきますのでご注意ください。不明な点などありましたら事務局にお問い合わせください。

### 【軽減税率対象になるもの】

- ・食肉の売買
- ・JOIN食肉買取（1羽分）
- ・卵の売買（食用）

### 【軽減税率対象にならないもの】

- ・生体の売買（ヒナ、親鳥等）
- ・飼料の売買
- ・卵の売買（種卵）
- ・食肉処理費用



## JOC広島支部発足

### ～食肉処理場稼働～

5月9日に開催されたJOC第45回理事会において、広島県地域において(株)広島県布野オーストリッチ(代表者:益田邦昭)、(有)みわ375(代表者:片岡誠)を支部員としてJOC広島支部の発足が承認された。(株)広島県布野オーストリッチでは、広島県地域の飲食店等に向けてオーストリッチの積極的な普及を図るとともに、農場の所在する三次市の道の駅にてダチョウ肉料理を提供していることは以前の本誌にでも紹介した通りである。また前号の114号で(有)みわ375にてダチョウの食肉処理を始める為、事務局より解体部位の指導の為に訪問したことを報告したとおりである。片岡氏は7月に鹿児島県オーストリッチ事業協同組合(代表:安藤勝利)の協力を得て、と殺・解体についての研修を受けた。この度、支部を設置することにより事務局と連携しつつ、今後の中国・広島地域でのオーストリッチ産業の活性化、及び会員誘致を期するものである。



## 帯広畜産大学クラウドファンディング

### 第1号プロジェクトにダチョウ飼育場拡大

帯広畜産大学では故三好俊三名誉教授を中心にダチョウ飼育研究を行っており、今もダチョウ飼育サークルの学生ら中心となって飼育管理をしている。当該サークルではダチョウ関連情報を必要としており、事務局としてはJOCへの会員加入を勧めたが学生という身分であることや故三好俊三特別会員の貢献も考慮して、本年5月に開催した第45回理事会において事務局への情報提供を条件に特別会員枠での会員加入を承認した。

この度、帯広畜産大学はクラウドファンディングを手掛けるReadyfor株式会社と寄付金の獲得による研究の活性化や学生の支援を目的とした業務提携を開始した。その第1号プロジェクトとして6月27日に公開されたのが「ダチョウが自由に走り回れるように、飼育施設を拡張させたい!」であり、本稿を書いている7月末時点で目標額119万円の8割程の資金が集まっている。(URL:<https://readyfor.jp/projects/dachou>)



## JRA補助事業 防疫・AW事業を受託

JOIN では J R A 平成 31 年度補助事業として「ダチョウ防疫強化対策事業」及び「ダチョウ飼養アニマルウェルフェア対応推進事業」の 2 本の事業を受託した。概要を下記に紹介し、進捗については次号以降で都度紹介したい。

### ■ダチョウ防疫強化対策事業

ダチョウ防疫強化対策事業はH29 年度事業で作成・配布された「ダチョウ農場防疫マニュアル」の活用状況の調査、及び同マニュアルを携えての現地指導を 10 件の農場で行うこと計画している。事業推進委員に竹原一明（農協農工大学院 教授）、児玉洋（大阪府立大学 名誉教授）、守永美夫（公益社団法人 中央畜産会 衛生指導部 主査）を迎え 7 月 3 日に事業推進委員会を実施し、8 月から 12 月にかけて全国的な現地指導を行っていく。

### ■ダチョウ飼養アニマルウェルフェア対応推進事業

ダチョウ飼養アニマルウェルフェア（以下AW）対応推進事業は、事業推進委員に竹原一明（農協農工大学院 教授）、紺野耕（アニマルインターカレッジ 顧問）、八木淳公（公益社団法人 畜産技術協会 技術普及部 部長）を迎え 7 月 3 日に事業推進委員会及び専門委員会を実施した。2 件の農場にて実施調査を行った上で、「AWの考え方に対応したダチョウの飼養管理指針」を作成する計画である。



## 編集後記

先日、2018 年に公開された映画「ボヘミアンラプソディー」を視聴した。英国生まれのロックバンドQUEEN そのメインボーカルのフレディ・マーキュリーを描いた作品だ。QUEENの楽曲には 70 年代生まれの小職にも多少の馴染みはあったものの、諸先輩方の方が馴染みが深いことと思う。映画にて表現されるQUEENのダイナミックな楽曲と、フレディ・マーキュリーのドラマチックな生涯に大変感銘を受けた。

ロックミュージシャンの中でもフレディ・マーキュリーのステージパフォーマンスは随一の評価がある。フレディ・マーキュリーは腰を高く保ち背筋を伸ばしてステージ上を練り歩きながら熱唱する。その姿は優雅に歩く Ostrich のようだと感じた。ステージに熱狂する観客の群衆が拳をつきあげて音楽に乗る姿は、さながら Ostrich の群れのように感じた。ロックのようなアップテンポな楽曲が人を魅了する要素を表現する言葉に「疾走感」というものがある。Ostrich ほど「疾走感」が似合う生き物もそういない。Ostrichi や Ostrich 製品にイメージされる魅力の一つにこうしたスター性があるのではないかと思う。

(JOC事務局 田中俊之)